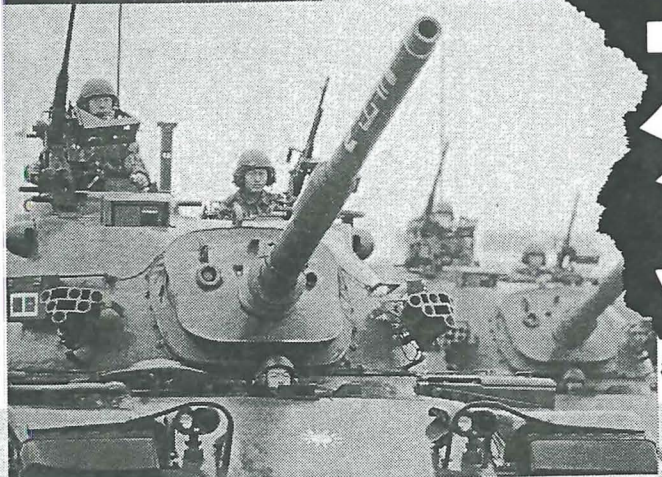




チベット研究者
ペマ・ギャルポ

激論!

その時どき 「台湾有事」は?



日米新ガイドラインの最もダイープな問題
「台湾有事」を考える!

中台戦争勃発!



軍事アナリスト
小川和久



社会学者
橋爪大三郎

中国の江沢民・国家主席が訪米中である。政治体制の違う両大国が21世紀に向けてどのような新しい関係を築こうとしているのか期待は高まるが、両者の間に相容れない「溝」があるのもまた事実。そのひとつが「台湾問題」だ。これは同時に日米新ガイドラインにおいて政治家たちが触れたがらないタブーの領域でもある。この問題に3人の論客が挑む!

なぜガイドラインを新しくする必要があったのか

新しい「日米防衛協力のための指針」、すなわち「新ガイドライン」が今年の9月、日米両国間で合意されました。
その中に記されている「周辺事態」がどの地域の有事を指すのか?といったガイドラインのへんしんについてはよく議論されていますが、実

は、根本的なところがボクらにはわかっていません。それは、なぜ今、ガイドラインを新しくする必要があったのか?ということ。新ガイドラインに込められたアメリカの狙いとはなんですか?
小川和久(以下、小川) アメリカ側当局者は、日米安保条約なしにアメリカは世界の

ペマ・ギャルポ (PEMA GYALPO) 岐阜女子大教授。チベット文化研究所長。51年生まれ。亜細亜大学卒。59年、ダライ・ラマのチベット脱出の後、インドに亡命。65年に来日。テレビのコメンテーターとしても活躍中。日本文芸家クラブ会員。

小川和久(おがわ かずひさ) 国際政治・軍事アナリスト。45年生まれ。陸上自衛隊生徒教育隊・航空学校修了。同志社大学神学部中退。地方紙、週刊誌記者を経て84年に軍事アナリストとして独立。日米安全保障を語らせたら右に出る人はいない。

橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 東京工業大学社会理工学研究所教授。48年生まれ。性、言語、権力を3つの原理とする社会学を展開。比較宗教社会学、権力論をテーマに中国にも関心の目を向けている。明快な語り口の論評には定評がある。



クリントン大統領と江沢民・国家主席の首脳会談は29日に行なわれる予定(AP)

リーダーたり得ないとはつきり言っています。つまり、在日米軍基地はそのためには必要不可欠な戦略的根拠地であるわけですが、この戦略的根拠地をより有効に機能させたというのが、日米安保に關してのアメリカの一貫した△願いVです。

とりわけ、今、アメリカの世界戦略のなかで(仮想敵として)優先順位の高い中国をコントロールしていくためには日米安保の内実をより実体



9月23日に合意をみた「日米新ガイドライン」。「周辺有事」の定義は自民党内でも意見が分かれている(AP)

しているだけかも知れませんが、でも、これがアメリカの意図する自由、民主主義と食い違っていないというのが実態ではないでしょうか。小川 ぼくは、将来の中国の軍事的なあり方をめぐって米中がしのぎを削っているという見方をしたほうがいいと思います。

当面、中国がアメリカについていくしかないということには自覚しているんです。アメリカ製の兵器や、その

の伴ったものに変えていく必要があるということで、ガイドラインの見直しは彼らの側から提起されたのです。——コントロールとは？ 小川 アメリカは今、中国に對して積極的関与政策(エンゲージメント)で関わっています。経済的には成功してはいますが、その経済力を基盤にして巨大な軍事を振り回す国にはなっていくくない、それがアメリカの本音です。そこで、人権問題などで内政干

技術がこれから中国に入っていきますね。軍事的に見れば、他国の兵器を使うことは、それを開発した国の属国になるということにほかならないんです。しかし、今に見ている、巨大な経済力を備えたあかつきには独自の兵器開発能力を身につけて、どこの国にも支配されないようにしたいという意図は明らかにあります。

あるはずですが、その駆け引きが今、行なわれているのです。——小川さんは、中国が今後、軍事的にどういうプレッソンスをしていくと見えますか。東南アジアの人がよく口にする「中国の軍事的脅威」は幻想でしょうか。

小川 中国人はまだ錯覚の中にいけば、世界に對して軍事的に「覇権」を唱えていこうなんていう人がいるかも知れません。ですが、指導的立場

涉的に関わり方をしつつ民主化を促せるならば全面的にバックアップする。一方で軍事プレッシャーをかけながら自分たちが期待する方向にもっていくというというのがアメリカの姿勢です。

例えば、現実には起きるかどうかはいくつかの条件に分ける必要がありますが、中台(中国と台湾)関係が火を噴きやすいことは間違いない。しかし、それらの国と国境を接している日本の防衛に對するあり方が机上の空論であり続ける限りは、いざという時に日米安保が機能しない可能性がある。そういう危機意識が「見直し」に繋がっているのです。

ペマ・ギャルポ(以下、ペマ) 今回の新ガイドラインについて日本の人はよく「見直し」という言葉を使いますが、日米安保の事実上の改定なので、すから、はっきりと「改定」と呼ぶべきではないでしょうか。もともと、そんなことを言う、社民党を始め野党、マスコミがこぞって反対を唱えるでしょうけれど。

に立つ新しい世代の人たちはもう少しクールな見方ができるようになってきて、おのずと限界を悟り、軍事を肥大化させない方向をとるのではないのでしょうか。ペマ そうはいいっても、私たち(チベット人)のような立場の人間からすると、中国の軍事的侵攻の脅威は根深いものがあります。

中国にとって日本は「脅威」か

——江沢民国家主席が先頃、『ワシントンポスト』紙のインタビューに答えて日本軍国主義復活の脅威を訴えました。中国の目に日本はどういう存在に映っているのでしょうか。

小川 日米安保を大きなプレッシャーにしたくないと中国は思っています。江沢民国家主席が新ガイドラインに對する非難の声をとりわけ日本に集中させているのは、日本のほうが「攻めやすい」からです。

つまり、中国にとって日本は、アメリカが中国に對して優位に立って政策を進めてい

私は、いざという場合に米軍と自衛隊がどう行動するか、作戦計画の大枠が変化したと捉えています。

アメリカは△自由Vという強い信念を持った国です。その理念を守るために彼らは積極的に世界と関わります。しかも、真珠湾攻撃の奇襲に懲りていまずから必ず先手必勝で臨みます。周辺に必ず強固な自由主義、民主主義の同盟国を作っておき、敵対する勢力があったら包圍攻撃して潰すというのが彼らの戦略です。ソ連なき後、新たに自由、

中国の「軍事的脅威」は幻想か

——アメリカの戦略的な意思を中国はどのような思いで受け止めているのでしょうか。橋爪 中国は人口や資源が集中し、長い間、世界の中心であった国です。にもかかわらず、異民族によって何回も国が侵略されてしまった歴史を持っていきます。だから、自分と異なる人種、民族が外から入ってきて自分たちの国を脅かすのではないかという潜在的な恐怖心がある。

冷戦で封じ込められる以前のベトナムへの侵攻、あるいは華僑などの移住を見ればわかるように、中国人は東や南に出たいという本能にも似た志向を持っています。この数年、中国は海軍や空軍に力を入れていくように見えますが、この動きがそうした本能に基づいたものでないことを祈りたいですね。

冷戦で封じ込められる以前のベトナムへの侵攻、あるいは華僑などの移住を見ればわかるように、中国人は東や南に出たいという本能にも似た志向を持っています。この数年、中国は海軍や空軍に力を入れていくように見えますが、この動きがそうした本能に基づいたものでないことを祈りたいですね。

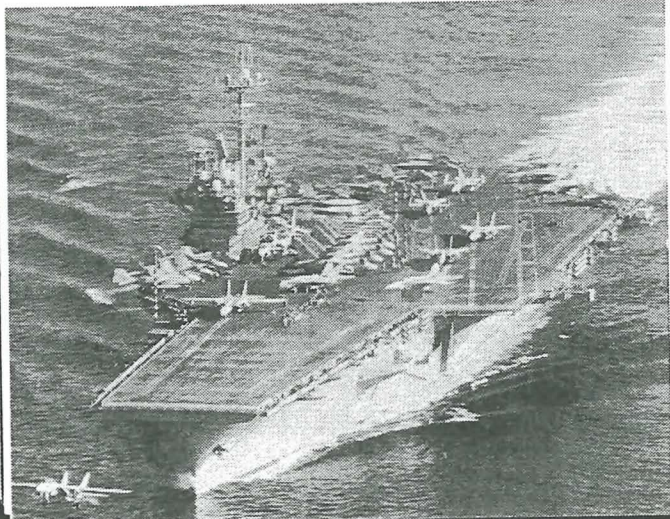
冷戦で封じ込められる以前のベトナムへの侵攻、あるいは華僑などの移住を見ればわかるように、中国人は東や南に出たいという本能にも似た志向を持っています。この数年、中国は海軍や空軍に力を入れていくように見えますが、この動きがそうした本能に基づいたものでないことを祈りたいですね。

民主主義を脅かす恐れがある国は中国です。朝鮮有事が新ガイドラインの焦点だと言いますが、北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)の脅威はいつまでも続きません。長期的に見ればやはり中国です。今、まさしく米中対決の時代に入ったのです。日本は地理的、経済的、軍事的な理由から、そうしたアメリカの対中国戦略に深く関与せざるを得ません。アメリカにとつて日本は絶好の△駒Vであり、中国の脇腹に突きつけたピストルなのです。

それゆえ、アメリカに對しては中国の独自性、プライドを守ろうと発想していくでしょう。今、大変に経済発展していますが、これは本来の中国に戻るプロセスだと自負し、それとワンセットに軍事力も中国の国際的地位にふさわしいものに整備していくと考えているはず。中国はアメリカを攻撃するつもりはなく、自分の周囲に中国的な世界秩序を作ろうと

日本が戦争当事国になることをより明らかにしたものです。アメリカと戦争状態に入った国からは日本もまた攻撃対象と見なされると、ぼくらは覚悟を決めなければいけません。日本政府はその同意を国民に求めながら、最悪な事態にならないように日米安保をどう機能させるか事前協議の活性化などアメリカと政治的な協議を深めることが重要なのです。でも、その意識が日本の政治家には希薄です。そこに危機的状況があります。

▲昨年3月の「台湾海峡危機」の際に現場に現れた米空母インディペンデンス(AP)



てホコを取るように働きかけをいたしますと常に言わなければならない。一方でそういう日米関係を作っておくことも必要です。



台湾海峡は常に中国と台湾の絶妙な政治的バランスで保たれている(AP)

小川 主権国家であれば当然、それは可能です。橋爪 ですが、いざ有事が発生したならば、世界秩序の維持、また日本の国益を実現するために最大限アメリカに協力すべきです。有事に協力し

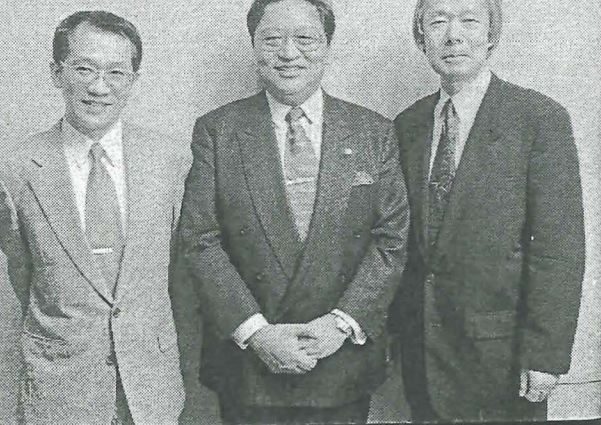
小川 ぼくは、中国がいつまでアメリカのことを「美国」と表現し続けるか興味を持って見ているんです。「アメリカ帝国主義打倒」を叫んだ時代にも「美国帝国主義」と書いていたんです。美という文字の代わりに嫌な字を当てはめることは可能なはずなんです。それをしないのは中国にはアメリカへの憧れとか劣等意識とかがあるからだと思います。江沢民の訪米中にも、そうした意識がアメリカへの態度に反映され続けるか

小川 中国がアメリカに依存する度合いは深まり続けています。表面的にはどうであれ、中国にとってアメリカと

中国とアメリカの駆け引きの間で

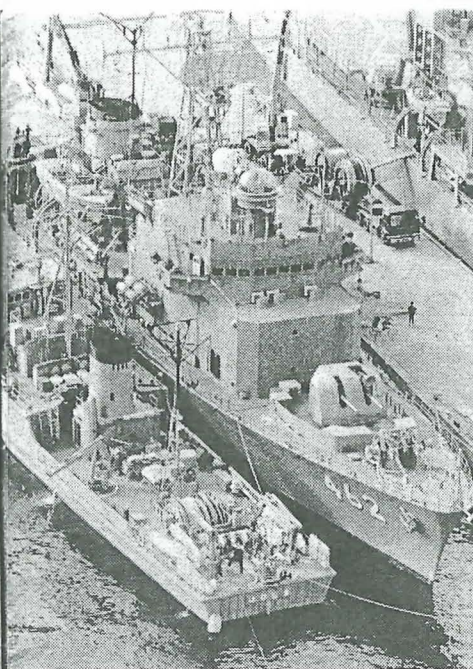
小川 ぼくは、中国がいつまでアメリカのことを「美国」と表現し続けるか興味を持って見ているんです。「アメリカ帝国主義打倒」を叫んだ時代にも「美国帝国主義」と書いていたんです。美という文字の代わりに嫌な字を当てはめることは可能なはずなんです。それをしないのは中国にはアメリカへの憧れとか劣等意識とかがあるからだと思います。江沢民の訪米中にも、そうした意識がアメリカへの態度に反映され続けるか

小川 中国がアメリカに依存する度合いは深まり続けています。表面的にはどうであれ、中国にとってアメリカと



3人の解説は鋭く、かつ明快。政治家の先生たち、ちょっと見習ってよ!

小川 ぼくは、中国がいつまでアメリカのことを「美国」と表現し続けるか興味を持って見ているんです。「アメリカ帝国主義打倒」を叫んだ時代にも「美国帝国主義」と書いていたんです。美という文字の代わりに嫌な字を当てはめることは可能なはずなんです。それをしないのは中国にはアメリカへの憧れとか劣等意識とかがあるからだと思います。江沢民の訪米中にも、そうした意識がアメリカへの態度に反映され続けるか



新ガイドラインにおける自衛隊の役割とは何か。明確な説明をできる政治家が日本にとだけいるのだろうか



間、中国にとって日本は技術や資本の供給国でした。しかし、日本経済が伸び切ってしまった今となっては無視できない存在です。軍事的には日米同盟がうるさい存在ではあるものの、他の面は無視できない。なぜなら、日本が持っているものは大概アメリカにもあるからです。従って、日本はパスしてアメリカときえ良好な関係を保てばいい。これが中国の率直な本音ではないでしょうか。

小川 中国をアメリカにとって都合のいい国にするための装置だと考えているのではないのでしょうか。

小川 中国をアメリカにとって都合のいい国にするための装置だと考えているのではないのでしょうか。

小川 そうです。日米安保条約6条の規定にもとづき、アメリカに基地などの施設提供をします。と。中国さん、もう少し自制してくれるのであれば、日本はアメリカに対し

今回のガイドライン作成でも日本の独自性やイニシアティブが見えない分だけ、逆に何か大きなショックがあった時に軍備拡大も含めて極端な道に走りかねない不安を感じます。日本の平和主義者は偽善的すぎるから、かえって危険であり、戦争を回避することもできないでしょう。

小川 台湾には、とにかく中国の逆鱗に触れる動きが起きないように関わっていくべきです。同時に中国に対しては日本と境界を接している地域で戦火を起すようなことがあれば日米安保条約の発動を是認せざるを得ない、それに至る前にやめてほしいと働きかけるべきでしょう。

小川 台湾には、とにかく中国の逆鱗に触れる動きが起きないように関わっていくべきです。同時に中国に対しては日本と境界を接している地域で戦火を起すようなことがあれば日米安保条約の発動を是認せざるを得ない、それに至る前にやめてほしいと働きかけるべきでしょう。

「台湾有事」の際、日本がとるべき道とは?